

令和7年度第3回富山県環境審議会 廃棄物専門部会概要

1. 日時 令和8年3月9日（月）10時～11時
2. 場所 富山県民会館 702 会議室
3. 出席者 委員：押川委員（富山県商工会議所女性会連合会会長）
加賀谷専門部会長（富山大学学術研究部工学系教授）
高橋委員（富山国際大学現代社会学部教授）
竹内委員（富山大学名誉教授）
袋布専門員（富山高等専門学校物質化学工学科教授）
長森専門員（富山県市町村一般廃棄物対策推進協議会長）
前原専門員（富山県産業資源循環協会専務理事）
山田専門員（(一社)富山県経営者協会環境委員会副委員長）
事務局：中島生活環境文化部次長、九澤参事・環境政策課長、
森環境政策課課長ほか

4. 議 事

(1) 富山県廃棄物処理計画の改定案について

事務局が資料1～2に基づき富山県廃棄物処理計画の改定案について説明した。
計画改定案のとおり、富山県環境審議会に報告することとなった。

(2) 今後の進め方について

事務局が資料3に基づき、今後の改定スケジュールについて説明した

(3) その他（情報提供）

- 事務局から次の内容について情報提供を行った。
- ・海岸漂着物対策推進地域計画の改定について
 - ・災害廃棄物処理マニュアルの作成について

5. 主な意見・質疑応答

(1) 富山県廃棄物処理計画の改定案について

（委員等）

サーキュラーエコノミーの推進に関して、コーディネーターの設置や業種間連携などの取組みを実施すると記載されているが、こうした情報を県内事業者へ紹介をしていただければより盛り上がるのではないか。

（事務局）

昨年6月に「富山県サーキュラーエコノミー推進プラットフォーム」を立ち上げており、登録していただければ補助金やセミナーの情報など様々な情報提供が可能になる。県内事業者の皆さまにもご案内させていただきたい。

(委員等)

サーキュラーエコノミーを実現するためには、これまでの廃棄物処理法に基づく対策に加えて、廃棄物になる前の段階からのアプローチが重要となる。

県環境科学センターでは様々な廃棄物関連の研究をされていると理解しているが、今後は産業技術研究センターが実施しているような産業分野の研究にも関わっていく必要があり、必要に応じて連携しながら研究を進めてほしい。

(2) 今後の進め方について

議事については、特に意見等なし

(3) その他（情報提供）

(委員等)

海岸清掃に毎年参加しているが、海岸漂着物には日用品や流域からのごみが多いと感じており、改定計画に記載のとおり、海岸漂着物の問題は、陸域を含めた県民全体の問題として捉えていくことが重要である。

災害廃棄物処理マニュアルについて、民間事業者との応援協定の締結など、平時から準備を進めておくことが、物資の供給などの初動対応をスムーズに行うために必要である。

(委員等)

海岸漂着物は起源が様々で対策が難しい課題だと考えている。県民に対して現状を伝えるだけでなく、どうすれば改善するかといったところまで伝えていけると良い。

災害廃棄物処理マニュアルについては、いつ災害が起きても対応できるよう、早急に進めていただきたい。

(委員等)

大学コンソーシアムで支援している地域課題解決の研究や、高校の課題研究において、現状、海岸漂着物のようなテーマはなかなか出てこない。単に情報を発信するだけではなく、大学コンソーシアムや教育委員会などの取組みをうまく活用して、いろいろな人が関われるよう工夫してほしい。

(委員等)

他県で大規模災害が起きた場合の支援について、県としてどのように考えているか。

(事務局)

現在国において、能登半島地震を踏まえて、人材バンクやD.Waste-Net（災害廃棄物処理支援ネットワーク）の実効性を向上するための検討が進められているところであり、県としても協力していきたい。

また、市町村や事業者が個別の応援協定を結ぶ事例もあり、県としては、こうした取組みをしっかりと把握し、支援していきたい。